

別添 1

令和元年度 事業報告

社会福祉法人 博愛福社会

(1) 法人本部

(2) 荒尾拠点

- ①荒尾拠点委員会
- ②ケアハウス
- ③特定施設入居者生活介護
- ④通所介護事業
- ⑤訪問介護事業
- ⑥居宅介護支援事業

(3) 大牟田拠点

- ⑦大牟田拠点委員会
- ⑧養護老人ホーム事業
- ⑨小規模多機能型居宅介護事業
- ⑩訪問介護事業
- ⑪居宅介護支援事業

(1) 令和元年度 評議員会の開催状況

令和元年度 定時評議員会の開催

日時：令和1年6月18日 場所：ホテル清風荘会議室

出席評議員8名/評議員総数8名、出席監事2名/監事総数2名、出席理事7名/理事総数7名

報告事項 平成30年度事業報告

第1号議案 平成30年度決算報告・監査報告の件

第2号議案 議案書別添3に表記する理事7名、監事2名の選任の件

(2) 令和元年度 理事会の開催状況

第77回理事会 令和1年5月29日 ユーユー会議室

出席理事7名/理事総数7名、出席監事2名/監事総数2名

理事長職務執行状況報告

第1号議案 平成30年度事業報告

第2号議案 平成30年度決算

第3号議案 平成30年度監査報告

第4号議案 評議員会招集並びに目的事項提案の件

第78回理事会 令和1年6月18日 だいふく会議室

出席理事7名/理事総数7名、出席監事2名/監事総数2名

第1号議案 理事長選任の件

第79回理事会 (決議の省略)

決議があったものとみなされる日 令和1年10月25日

第1号議案 令和1年度第1次補正予算の件

第2号議案 給与規程改正の件

第80回理事会 令和2年2月26日 有明商事(株)会議室

出席理事7名/理事総数7名、出席監事2名/監事総数2名

第1号議案 新型コロナウイルス対策全般についての件

第81回理事会 令和2年3月23日 だいふく会議室

出席理事7名/理事総数7名、出席監事2名/監事総数2名

報告事項 理事長職務執行状況報告

第1号議案 平成31年度第2次補正予算の件

第2号議案 令和2年度事業計画の件

第3号議案 令和2年度予算の件

第4号議案 ユーユー施設長定年延長の件

(3) 実施している事業

大きな変更はなし

1. 研修委員会

①全体の概況

必須項目の「法令遵守」「救急救命」「接遇」研修を実施。その他、職員の身体のケアや感情のコントロール方法に役立つ情報、高齢者の食事の大切さなどの研修会を実施した。

②活動報告

全体の職員数が減った為、参加人数としては減少しているが、身近な課題や興味のある題材を取り上げ、参加者には好評を得た。今後も部署に共通して学べる身近な内容を中心に研修会を開催し、職員全体のスキルアップにつながる活動を行いたい。

2. 感染対策委員会

①全体の概況

新型コロナウイルス感染予防対策のため、安全衛生委員会や吉野園感染委員会と協力し、来訪者への対応（入室制限や面会簿の見直し）、施設内の対応（体調管理や集団感染予防策）感染者出現時の対応、処遇などを話し合い、職員全体へ周知することで混乱を防いだ。

②活動報告

年4回の定例会議に加え、新型コロナウイルス感染拡大対策のため、臨時の会議を3回実施しマニュアル作成を行い、次年度へ繋げるようにした。感染予防等の備品管理や毎日の喚起、施設内消毒等感染委員会だけではなく施設全体で認識し、取り組みを行なうことが出来た。

3. 事故防止委員会

①全体の概況

ヒヤリハット、事故報告書を集計し、定例委員会で報告、検討を行い、緊急度・危険度の大きな事例はその後の状況報告。知識の向上と注意喚起の為、年二回の全体研修会実施した。

②活動報告

毎月ヒヤリハットと事故報告書を集約し、委員会で報告と検討を行った。また、6月に交通事故事例、11月に医療事故事例について全体研修会を実施し、多発している同様の事例、重大な事故防止への注意喚起を行った。

4. 防災対策委員会

①全体の概況

偶数月に委員会を開催し、計画に従って概ね委員会活動や訓練、研修を実施できた。夏季には台風により上階のベランダ避難板が破損したが、入居者や居室内には大きな被害はなかった。

②活動報告

4月の組織体制見直しに始まり、応援体制に重点を置いた新たな防災訓練の実施、水害対策訓練や災害時緊急連絡網訓練、職員研修の実施、また今年度より井手川地区協議会との連携により、地域における施設の防災対策についても本委員会内で協議・検討を行った。

5. 安全衛生委員会

①全体の概況

新任委員2名が入れ替わり、委員会を毎月開催。施設内外の老朽化補修や健診後のフォローアップ、感染症対策などに取り組んだ。腰痛予防研修は研修委員会主催をみて見合わせた。

②活動報告

年間計画に従って毎月の職場パトロールや産業医による健康相談、1件発生した労災事例や入居者の結核疑いなど感染症事例への対策検討、第4回ストレスチェックの実施、また、2月以降は感染対策委員会と連携し、新型コロナウイルス対策にも着手した。

6. 身体拘束廃止委員会

①全体の概況

高齢者虐待、身体拘束、不適切ケアを中心に事例検討を行い、身体拘束実施時は記録の保管を確実にすることや、マニュアル整備や周知、二回の全体研修を通して施設全体の理解を図った。

②活動報告

施設内外から事例を収集し、委員会内で検討、委員会役員でまず理解を深めて各部署へ周知していった。その後、事例をまとめて各部署へ配布。部署内研修用の資料として利用してもらう。本年度、身体拘束に至った事例はなく、主に不適切ケアに焦点をあてて二度全体研修を実施した。

令和元年度事業報告

部署名

ケアハウス

1 全体の概況と課題

5月の満室以降、1日付50名は延べ4か月間に留まった。退居6名のうち5名が他界、さらにその半数を一般入居者が占めた。約半数が90歳を超え、年度末には新型コロナウイルスの感染対策に追われることとなった。また、その影響は施設内外の部品・備品の納入遅延、面会・販売業者・入退居に関する業者の出入り制限等々、入居者の生活と施設運営に大きな弊害となって来ている。

2 入居者対応

①入居者の状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実績	入居者総数(1日付)	48	50	49	50	50	49	49	50	48	49	49	50	591
	新規入居数	0	2	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	7
実績	退居数	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	1	6

《入居者確保への取り組み》

入居待機者は夫婦部屋6組、個室48人である。今年度は職員の家族や医療機関の相談員紹介から新規入居へとつながった事例が多く見られ、今後も各居宅支援事業所や各医療機関との連携により待機者を確保して行く。また、体験入居の受入れについては新たに「宿泊室利用規定」を作成し、運用している。

②利用者処遇と課題

今年度から井手川地区協議会への参加により、今後入居者を含めた地域交流・貢献が期待されている。感染症対策として共用部分の使用制限や入居者の検温、施設内消毒の回数を増やすことを検討している。

③行事・クラブ活動

《行事》

4/2 花見会、4/23 外食、5/14 大河ドラマ館見学、6/7 日帰り食事会、6/28 誕生会、7/31・8/2 セタジョイフル甘味会、9/15 誕生会(敬老会)、10/12 秋祭り、10/20 運動会、11/5 外食、12/20 誕生会(忘年会)、1/1 元日式、1/10 ぜんざい会、1/18 初詣、2/2 豆まき会、3月は新型コロナウイルス感染症対策として全行事を中止した。今年度はNHK大河ドラマにちなんだ外出行事や、これまで「元日式」としておせち料理を2食提供していたが、おせち料理を3食提供へと変更するなど、新たな内容も計画した。

《クラブ》

週2回開催の健康体操は延べ987人が参加し、昨年比較で参加者数は平均1.1人増加、また同じく週2回開催の頭の体操は延べ681人、平均0.3人増加となった。さらに各階の談話室お茶会も平均0.7人増加しており、離室や入居者間の交流に貢献できたと思われる。一方、男性入居者4人が宿泊室に集まって開催している麻雀クラブは参加人数が毎回揃うことなく、実施を見合わせている状況が続いている。

3 職員研修

(内部)	(内部)	(外部)
4月 法令遵守	6月 食中毒	6/27 くもん学習療法 マスター取得
6月 接遇マナー	事故防止研修	8/9 安全運転管理者等講習
8月 救急救命	11月 インフルエンザ	8/19 くもん学習療法 学びの会
10月 食について考えよう	事故防止研修	9/19 くもん学習療法 マスター指定研修
12月 腰痛予防体操		
2月 アンガーマネジメント		
(部署内)		
4月 見学案内	6月 緊急時対応	8月 学習療法
10月 感染予防・対策	12月 収入申告	2月 自己点検・自点検

4 防災関係

5/21 防災訓練 夜間想定 職員のみを対象として11名が参加。火災時に応援に駆け付けた職員の動きを昼間帯と比較して訓練実施した。11/26 防災訓練 昼間想定 入居者41名参加。例年同様に避難誘導訓練を行った。また、水害対策として次年度以降に1階ドレンを増設する予定である。

5 設備関係

上半期は北側駐車場設置の外灯をLEDに新品交換し、台風被害による5階ベランダ避難板を修復する等した。下半期についても台風被害による3階ベランダ避難板修復や、5階屋上ボイラーの不具合修理を実施、また、年間を通じて各居室や厨房事務所など各所で発生したエアコン不具合は新品交換や業者修理などにて随時対応した。来年度は発電機の設置が予定されており、その活用が期待される。

1 全体の概況と課題

4月契約者数34名から始まり、2年3月末現在36名。

内訳は、5月、7月、11月新規各1名、11月1名契約解除(ご逝去)、12月新規1名、3月1名契約解除(ご逝去)、次年度4月に1名契約予定となっている。

一時期37名になったが、最終的には当初の計画通りの契約者数となった。特定入居者がご逝去されて、空きに特定入居者が入るので、契約者数に大きな変動はないが、一部状態悪化によりケアハウスから移行される方がおり、その分1年間で2名程増えている結果となっている。

職員教育も継続中で、部署内研修他、社外研修にも積極的に参加させている。

医療行為の増加、年度後半には看護師の退職者も出たことで、看護職員の負担増加が懸念されている。

365日朝昼夕と看護職員が対応しなければならない行為(インスリン注射や経管栄養)が必要な方の新規契約は現状受入難くなっており、状態の悪化によりそれらが必要になってしまった入居者は退居せざるを得ない状況である。今後高齢化が進んでいく中で、契約者数が減っていく要因となり得る。

職員体制が整わないまま退職者が相次いでおり、業務の優先順位をもとに大幅に削減し、他部署等から応援に来てもらうことでどうにか必要人数を確保している。入居者処遇への影響もでており、新規での特定入居が厳しい状況となっている。更に、新型コロナ感染防止対応も加わり、職員の業務量やメンタルヘルス面への配慮が必要となっている。

2 利用者対応

①利用者の状況

入居者数＝契約者数(含 入院者)

日数＝実績数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入居者総数(月末)	34	35	35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	428
入居者総数(月初)	34	34	35	35	36	36	36	36	36	36	36	37	427
要支援Ⅰ(日数)	30	62	60	91	93	90	93	60	62	62	58	62	823
要支援Ⅱ(日数)	60	57	69	70	71	74	47	41	74	62	58	93	776
要介護Ⅰ(日数)	473	459	418	434	434	420	434	437	434	430	393	434	5200
要介護Ⅱ(日数)	210	217	238	217	217	210	217	240	248	232	203	186	2635
要介護Ⅲ(日数)	90	93	90	114	124	120	124	90	88	93	87	124	1237
要介護Ⅳ(日数)	120	144	90	93	93	90	93	120	124	124	116	124	1331
要介護Ⅴ(日数)	30	31	60	62	62	59	62	60	49	31	29	31	566

《利用者確保への取り組み》

完全な新規は本年度1名程度で、他は居宅や関連施設からの紹介であった為、他部署施設との連携は円滑に行えている。ただ、特定入居者が高齢の為ご逝去されるケースが増えており、結果的に人数は大きく増加していない。職員不足もあり、今後は新規で37名以上となった場合の対応を検討していく必要がある。

②利用者処遇と課題

1) 病状の増悪、看取りについては、家族、主治医と連携し方針を固めていく事ができた。

2) 入居者の状態報告を逐次行い、早期の対応ができた。

3) 入居者や職員の意見を検討するカンファレンスの開催頻度が極端に減少し、今後の課題となった。

③行事(ケアハウス別紙参照)

職員の減少により、特定での行事はほぼ開催できていない。また、ケアハウスの行事にも、職員を割けない状態となっており、新型コロナ感染予防等もあり事実上実行不可能となったものもある。

3 職員研修 (他個人で参加の研修は含まない)

《外部研修》

6月	認知症治療薬 (荒尾市在宅医療連携室)	居宅・特定参加
	監査説明会、県集団指導	全部署主任参加
9月	糖尿病・CKDの地域連携 (荒尾市在宅医療連携室)	居宅・特定参加
11月	よくわかる高血圧と動脈硬化 (荒尾市在宅医療連携室)	居宅・特定参加

《部署内研修》

4月	事業所説明会
5月	実習指導
6月	認知症対応
8月	緊急時対応1
9月	生活支援、緊急時対応2
11月	アンガーマネジメント
2月	防災筆記試験

4 防災関係

ケアハウスと同様

防災訓練前に特定全職員に筆記試験を行い理解度を深めている。

令和元年度事業報告

部署名

通所介護事業

1 全体の概況と課題

①計画にあげていた実利用者数、延利用者数には本年度も届かなかったが前年度に比べ延利用者数は5%程度伸びている。利用状況も徐々に回復がみられていたものの、高齢化に伴い、退院見込みがない、ご逝去、他事業所へ移行等で中止者が15名に対し、新規が12名と中止が上回った。1月ごろよりインフルエンザを警戒していたが新型コロナウイルスの発生で、在宅利用者の感染予防での欠席、吉野園の利用を一時中止といった影響により利用者が減少。新型コロナウイルスで対応が難しく、今後もコロナウィルス感染症に対して情報収集に努める必要があり、また、仮に感染状況により営業休止となれば各部署の連携した対応が必要である。

②コロナの影響もあり、利用者、そのご家族の希望に添えるというよりは負担があったかと思われる。他事業所とは、情報の交換、共有を図り信頼を得る事が今後も課題となる。

2 利用者対応

①利用者の状況(数値計画)

《介護保険事業(予防給付・介護給付)》

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	実利用者数	53	53	54	54	55	54	52	51	50	45	42	47	610
	延利用者数	490	500	530	520	560	520	530	530	520	460	420	440	6,020
実績	実利用者数	44	45	46	45	45	47	47	47	47	45	40	41	539
	延利用者数	452	476	448	454	426	450	474	454	441	404	385	398	5,262
	一日平均利用者数	17	17.6	18	17	17	18	17	17	15	16	15	15	

《利用者確保への取り組み》

上半期は範囲を広げてのPRチラシのポスティングの継続実施し利用状況報告書の再開した。下半期は現在利用中の利用者の声を聴き内容の検討し利用者の反応を見ながら徐々に変更して様子を見た。

次年度は、新型コロナの発生状況を見ながら、他施設見学等を積極的に取り入れ当事業所の新しい取組みとして参考にしたい。

②利用者処遇と課題

デイルーム内の配置変えから始まり、徐々に変更し利用者の反応も良く積極的に活動される方が増えてこられたように思われる。現在の利用者への内容の充実を図り、より力を入れ新規の獲得を目指す。

職員間でも利用者の情報交換、共有もスムーズに出来つつある。今後より一層、職員間のコミュニケーションを取り、報・連・相を行い利用者対応がしっかり行えるように取り組む。

食事の面でも、利用者の声を聞きながら、継続して厨房との連携を図っていきたい。

3 職員研修

《研修実績》

外部研修: 5月 地域ケア会議症例発表 6月 集団指導 7月 個別機能訓練加算

内部研修(研修委員会等主催):

4月 法令遵守 (研修委員会) 6月 接遇マナー (研修委員会)
食中毒 事故防止(感染・事故防止委員会)
8月 救急救命 (研修委員会) 10月 認知症 (研修委員会)
11月 インフルエンザについて 事故防止 (感染・事故防止委員会)
12月 腰痛体操 (研修委員会) 2月 アンガーマネジメント (研修委員会)

部署内研修:

4月 接遇マナー 6月 安全運転 8月 自立支援
10月 事故防止 12月 認知症介護 2月 緊急時の対応

4 防災関係

5月・11月に防災訓練実施

令和元年度事業報告

部署名

訪問介護事業

1 全体の概況と課題

本年度は、施設に入所中の利用者への介護の提供から、在宅や地域での要介護利用者への支援へとシフト変更となつてのスタートだった。変更後の最初の年として、在宅で要介護状態になられた方が、それまでの生活を継続できるよう支援することを重要点として、事業所運営を実施した。当居宅ともしっかり連携し、とくに事業所の所在地である地域の方への受け入れが数多くできたということからも、取組実績をさらに伸ばす必要はあるが、しっかり支援の提供ができていることと思われる。年間を通して、介護の変更があられた方を含めて、新規利用者が30件となり(要介護利用者24名、要支援者6名)、次年度以降もこの実績を更に伸ばせるように取り組みを続けていきたい。

特定事業所指定への取り組みは、9月に訪問介護特定処遇加算が実施され、当事業所も加算を申請したことから、利用者の負担を考慮すると、現状では特定事業所指定は先送りとした。

2 利用者対応

①利用者の状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	総合事業	23	22	20	21	21	20	21	19	18	19	19	20	243
利用者数	要介護	28	31	34	32	30	30	29	29	31	30	29	35	368

○入院(1～3ヶ月) 25名、(4～6ヶ月) 1名、(7ヶ月～) 4名

○他事業所へ 2名 ○特定へ 1名 ○施設へ 5名 ○その他 4名 ○死亡 6名

《利用者確保への取り組み》

総合事業の継続により、地域包括支援センターより引続き新規利用者の受け入れを実施した。

そこから、要支援の方が要介護になれるケースもあり、また地域介護を支える上で、新規に介護保険の利用に対する必要性のある方へ申請について助言をなどを行い、当事業所のサービス利用につながるケースもあった。様々な居宅支援事業所より新規の受け入れをすることができ、重度の方の短期利用なども受け入れを実施し、サービスの継続につながっている。

②利用者処遇と課題

重度の利用者の受け入れを重要視するようになってからは、ターミナルを見据えた支援となることが多くなっている。そのため、入退院の回数も多く、入院後にそのまま亡くなるケースもあった。しかし重度者を受け入れる実績としては、できてきていると思われる。認知症状のある、中度や軽度の利用者の方が在宅で生活される上での、支援が増えているが、同時に要介護状態では在宅生活が困難で施設入所となられるなど、介護を提供する上で今後も利用者の実情をしっかりと踏まえた支援内容の再検討が必要になってくることが課題といえる。

3 職員研修

事業所内研修は、毎月実施。また事例検討も各月にて実施した。内部研修においては、より専門性があり、在宅での訪問時に必要な知識についての研修を実施することで、事例検討での、提供内容に関する検討時もより意見交換や情報の共有へとつなげることができている。

《外部研修》

令和元年 6月 平成21年度指定訪問介護事業者集団指導 (熊本県主催)

令和元年 2月 難病疾患等ホームヘルパー養成研修 (熊本県主催)

《内部研修》

令和元年 4月 「法令遵守」 (研修委員会主催)

令和元年 6月 「接遇マナー」「食中毒」 (研修委員会主催)(感染委員会主催)

令和元年 8月 「救急救命について」「事故防止」 (研修委員会主催)(事故防止委員会主催)

令和元年 11月 「生活支援、緊急時対応2」「感染症対策」 (研修委員会主催)(感染委員会主催)

令和元年 2月 「アンガーマネジメント」「事故防止」 (研修委員会主催)(事故防止委員会主催)

令和元年 7月 「身体拘束廃止について・事例検討」 (身体拘束廃止委員会主催)

令和元年 1月 「身体拘束廃止について・事例検討」 (身体拘束廃止委員会主催)

《部署内研修》 毎月1回定期研修・事例検討会

令和元年度事業報告

部署名

居宅介護支援事業(ユーユー)

1 全体の概況と課題

居宅介護支援事業所の管轄が市町村へと移行し二年が経過した。地域での高齢化率も上昇し、老老介護や家族との関係性が希薄化し、医療や介護の現場でも様々な困難事例が発生している。地域ケア会議では、地域資源も含め様々な問題を地域で解決しようと取り組みが行われ当事業所でも、症例発表や助言者として積極的に参加が出来た。また家族が精神疾患を伴う場合の困難事例では、定例会議での事業所間での話し合いを重ね包括支援センターや市保険介護課等と協力しながら、チームアプローチで解決に向けての対策を行い距離も近くなった。

新型コロナ感染予防については、在宅訪問前に電話確認を行い、マスク着用や手指消毒の徹底及び短時間での訪問を心掛けた。今後も集団感染を予防しながら、一日でも早く落ち着いた日常を取り戻せるように精神的な支援を含め業務を行いたい。

2 利用者対応

①利用者の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規利用者数	2	22	7	5	2	1	3	5	1	3	3	6	60
実利用者数	130	149	154	154	145	148	146	147	144	140	142	146	1745
(介護給付)	121	121	123	122	114	117	117	120	116	112	113	118	1,414
(予防給付)	8	18	19	20	18	19	10	10	11	8	13	8	162
(事業対象者)	1	10	12	12	13	12	19	17	17	20	16	20	169

《利用者確保への取り組み》

退院時のカンファレンスなど積極的に参加し、在宅支援に引き継ぐことで、急性期病院の医療連携室からの利用者紹介が増えた。また五月は包括支援センターからの予防給付や事業対象者も増やす事が出来た。他事業者からの相談や紹介も増えていて、今後も医療や行政、他事業所との顔の見える関係作りを積極的に行う事で利用者確保に繋げていく。

《利用者処遇と課題》

新型コロナウィルス感染拡大により、国が緊急事態宣言を決定した影響を受け、身近な通所系サービスの休業や面会制限が余儀なくされ、代替えサービスの提案や外出が出来ない事への精神的なフォローをいかにして行うかが課題となっている。感染や生活不安から利用者を守るためのテレビ等の情報や地域の状況などの伝達や支援は勿論、事業所間でも職員一人で抱え込むことがないように更なる作戦会議を立てて精神面の衛生を保てるようにしていきたい。

3 職員研修

4月 地域ケア会議	9月 糖尿病・CKDの地域連携
5月 地域ケア会議発表	10月 包括とのケアマネ研修会
6月 第1回主任介護支援専門員の集い	11月 ヘビークレーム対応研修会
6月 包括とのケアマネ研修会	12月 地域ケア会議
7月 地域ケア会議助言者参加	1月 ストレスケアマネジメント研修会
7月 市の集団指導説明会	2月 地域における医療と介護の繋がりを深める研修
	2月 第2回主任介護支援専門員の集い
(内部研修)	(部内研修)
4月 法令遵守・年次有給休暇の時季指定義務説明	4月 書類整理の確認
6月 接遇マナー	7月 集団指導の周知
6月 食中毒・前年度事故報告 (感染対策委員会・事故防止委員会)	10月 事例検討
	1月 事例検討
8月 救急救命	
9月 生活支援、緊急時対応2	
11月 アンガーマネジメント	
2月 防災筆記試験	

1 研修委員会

職員不足ではあるが各部署で協力し1人1回は外部研修に参加できるよう計画・実施した。外部研修・内部研修の参加状況を各委員が把握し確実な受講に努めた。新人研修についてはタイムリーな計画ができず入職後スムーズに実施することができなかった。

2 防災・防犯対策委員会

防災訓練、火災訓練を年2回を実施。職員、近隣住民との避難誘導、消火訓練で連携を確認できた。また、新警戒レベルに対し、発令時の各事業所対応行動をマニュアル化できた。年度末に計画していた防犯訓練はインフル、コロナウイルスの関係で実施見送りとした。

3 感染症予防対策委員会

①年2回の内部研修

6月：食中毒について 10月：インフルエンザ、ノロウイルスについて

②感染症流行時期の面会について

前年度より内容を細かくし

“感染症流行時期の面会、外出・外泊禁止のお願い”のお手紙郵送

③新型コロナウイルス対策

- ・緊急委員会開催で来訪者の対応、施設内の対応の取り決め
- ・マイコス非接触式体温計の追加購入
- ・衛生用品の確保

4 安全衛生推進・事故発生防止・リスクマネジメント委員会

◎前年度に比べると、事故報告の件数は減少しているが、事故防止の為に必要なヒヤリハット報告の提出も少ない。重大な事故の背景には、いくつものヒヤリハットがあると考え、今後もヒヤリハット報告の提出を促していく必要がある。

◎毎月、巡回を行うことで、安全な職場環境は保たれていると思われるが、複数の退職者がいたため、働きやすい職場環境作りに取り組んでいく必要がある。

◎職員の健康管理について、自己管理が徹底出来ない職員がいるため、意識改善が必要である。

◎内部研修・・・●6月：腰痛予防について（外部講師） ●7月：ストレスチェック

●：インフルエンザ対策、誤薬防止について（産業医より）

●：交通安全について

5 認知症（予防）委員会

①認知症内部研修（1月）

令和2年1月15日、20日、28日の3回に分けて内部研修を実施した。

参加人数合計63名

参考資料：「認知症介護のABC」～認知症の基本的理解～

②外部研修に参加・・・講演と映画「ぼけますからよろしくお願いします」

内部研修内で委員が外部研修報告を行った。

6 ターミナルケア委員会

小規模よしのでは1名、吉野園では死亡退所者11名のうち、6名を園で看取った。

繰り返し学習、体験していくことで全職種職員が連携、協力を行った。

生活の質を豊かにすることと、限りある時を穏やかに過ごしていただくという2つの目標を主観的感情を取り払い、死に行く人に寄り添い、その人らしく最後まで生活していただくよう支援に努めた。

7 身体拘束・虐待防止・ケア（処遇）向上委員会

「身体拘束等適正化指針」をもとに現行マニュアルの整備を行い、全体に研修として周知を図った。

また、権利擁護の視点や各種介護研修からの身体拘束廃止、虐待防止の研修も全体に行い

昨年度から焦点を当てた『不適切ケア』では日常の中で行われていないか注意深く観察し、具体例を挙げながら考え、改善を図り、ケアの向上へと繋げていけるように努めた。

吉野園

1 全体の概況と課題

令和元年度1日平均在園者数(87.20人)は、前年度(86.48人)に比べて約1名上回る数字となった。しかし新規入所者数は15名、死亡退所も11名であり満員になることはほとんどなかった。新規入所者については経済的に問題を抱えた方の入所が多く、入所後に金銭面の整理が必要な方が多くなっている。虐待により在宅生活が困難になっている方を受け入れ、入所後は経済的にも身体的にも安心して生活できるよう、職員は協力して支援を行っている。近隣行政の荒尾市や南関町からの入所はゼロであったため、今後は、情報提供を行いながら吉野園の存在をアピールしていく。

2 利用者対応

①利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初日入所者数	86	85	85	87	88	89	89	87	88	87	87	87	1,045
初日新規入所者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2日以降入所者数	0	2	2	1	1	1	0	2	1	1	1	3	15
当月退所者数	1	2	0	0	0	1	2	1	2	1	1	2	13
月末入所者総数	85	85	87	88	89	89	87	88	87	87	87	88	1,047

退所 13名 園内死亡 6名 入院死亡 5名 措置廃止2名

入所 15名 大牟田5名 みやま7名 柳川3名

入所者介護別人数 総数88名 自立者15名 事業対象者4名 要支援1 2名 要支援2 3名

要介護1 25名 要介護2 14名 要介護3 13名 要介護4 6名 要介護5 8名

②入所者確保への取り組み

様々な虐待や対応困難事例、また緊急的な入所依頼が多数を占める中、柔軟かつ迅速な対応を行ってきた。

また地域包括支援センターや病院等の地域連携室からの問い合わせ等にも積極的に取り組み、終の棲家としての役割、看取りまで行う施設として行政や地域からの要請に応えるように努めた。

③入所者処遇と課題

1.精神疾患のある入所者や、高齢による疾患や転倒による怪我等、変化しゆく個別のニーズに対応した処遇計画を作成し、ケアマネや看護師と連携を取りながら園生活を支援している。

2.訪問診療による歯科検診の実施と定期的な口腔ケア、個々の口腔状況に応じて治療を受けていただくことで、最期まで口から食べる楽しみを持たれるように努めた。誤嚥性肺炎予防にも効果がある。

3.各棟、各階ごとに開催した入所者懇談会では、お茶やお菓子を準備し、和やかでそれぞれの発言しやすい雰囲気を作れた。その中で改善できる点もあり、園での規則も確認できる場となった。また入所者懇談会全体会も1回開催し、インフルエンザ流行時期のルールやその他園生活での決まりの確認を行った。

④行事について

4月:花まつり・ふれあいサロン5回・地域交流BBQ大会・入所者懇談会・グルメツアー・お花見

5月:新茶会・グルメツアー・大正琴慰問・母の日・元村地域清掃・端午の節句・ふれあいサロン4回・嗜好調査・喫茶吉野・駅弁・入所者懇談会・防災訓練

6月:運動会・グルメツアー・三池浩二氏慰問・ふれあいサロン5回・父の日・残食調査・駅弁・橋中職場体験

7月:入所者懇談会・七夕行事食・グルメツアー・大蛇山巡行・土用丑の日・ふれあいサロン4回・喫茶吉野・歯科検診

8月:お盆(迎え団子、送り団子)・ふれあいサロン3回・グルメツアー・入所者懇談会

9月:敬老会・十五夜行事食・お彼岸・ふれあいサロン5回・倉永小読み聞かせ・入所者懇談会

10月:吉野園祭り・入所者懇談会・元村祭り・グルメツアー・ふれあいサロン4回

11月:追弔会・ふれあいサロン5回・バイキング・入所者懇談会・駅弁

12月:クリスマス会・忘年会・居酒屋吉野・ふれあいサロン4回・防災訓練・ゆず湯・入所者懇談会

1月:元旦式・ふれあいサロン3回・鏡開き 2月:ふれあいサロン3回・バレンタインデー・節分豆まき 3月:ひな祭り・お彼岸

⑤感染症及び食中毒予防対策

施設内の環境整備の新たな取り組みとし、1日2回の手すり、ドアのぶ拭き、居室、廊下等の換気にも努め、感染症の発生、蔓延防止に繋げた。厨房内は常に清潔に保ち、温湿度を確認し、環境温度にも気を配った。

⑥食事について

多職種連携で個人の摂食機能に合わせた食事形態の見直しを行った。より安全な食事提供ができた。

3 職員研修

外部研修 51回(延べ参加人数 110名) 内部研修 44回

希望調査を参考にし興味ある外部研修へ参加し、その後内部研修として他職員への報告を行うことで、知識を深め意欲の向上を図った。

4 防災計画

①5月:台風時のライフラインが停止した際を想定し、発電機と給水ポンプの使用方法や照明確保の訓練を実施。

②11月:夜間火災を想定した初期消火、避難誘導、緊急連絡による駆けつけ職員の割り振りの仕方等の訓練を実施した。

③防犯訓練に関しては、インフルエンザ・コロナウイルスの関係で実施を見送った。

令和1年度事業報告

部署名

小規模多機能型ホーム よしの

1 全体の概況と課題

徐々に利用者を増やす事ができていたが、入院、死亡により減少した。長期入院にも動じない為にも、病院の地域連携室、地域包括支援センターにチラシを配布し、小規模の利点をアピールするよう努力した。利用当初は、通い・訪問・泊りを柔軟に組み合わせる事で安心した生活が出来ていても、途中から泊り中心になってしまうケースが多い。利用者の生活状況に応じ、適切なサービスを見極める事が大切である。

2 利用者対応

① 利用者の状況

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	15	17	17	18	18	19	19	21	19	18	18	17	216
新規利用者数	2	2	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	8
利用中止	0	2	0	0	0	0	0	2	1	0	1	1	7
利用者総数	17	17	18	18	19	19	21	19	18	18	18	16	218

新規利用者数(8名) 要支援1:1名、要介護1:3名、要介護2:4名

介護度別人: 要支援1:1名、要支援2:2名、要介護1:3名、要介護2:6名、要介護3:2名、要介護4:2名、要介護5:0名

②利用者確保への取り組み

吉野地区包括支援センターからは、ふれあいサロン利用者の紹介が多かった。ふれあいサロン利用者より介護保険制度や生活相談等を受け、総合事業や予防サービスに繋げる事ができた。利用者の生活状況に合わせ、1日数回の訪問を行い、利用者と家族の安心感を得ている。

③利用者処遇と課題／健康管理

小規模多機能サービスである、通い、訪問、泊りを柔軟に組み合わせる事により、利用者の状態の変化に迅速に対応でき、健康状態の悪化を防ぐ事ができている。主治医、看護師、看護職員、家族と共に看取りを行い、スキルの向上につながっている。毎日全員の健康チェックを行い、主治医に報告・連絡・相談等を随時行うことにより健康管理ができています。

④感染症及び食中毒予防対策

吉野園と同様

⑤レクリエーション／行事

健康体操、ゲーム、脳トレ、ボール運動、茶話会等実施し、認知症・介護(転倒)予防に取り組んでいる。運動会、吉野園祭、吉野園祭り等吉野園の行事に参加している。敬老会、クリスマス会、家族会等は、小規模独自で実施しているが、家族や利用者にもっと楽しんで頂けるよう努力が必要である。地域密着型事業所として、地域交流に心がけ、地域の安全・安心の為に、困り事等相談業務も行っている。

3 研修

外部研修 21回

内部研修 44回

部署内研修 3回

年間研修計画通り実施できていたが、コロナウィルス感染予防対策のため、ターミナル内部研修は資料を配布し、年度末に予定されていた研修、集団指導等は中止になった。

4 防災対策

令和1年7月26日…デイサービスえがお・ガーデンハウス吉野入居者火災避難・誘導訓練、通報・連絡訓練

令和1年5月30日…大雨、暴風災害時の避難・誘導訓練(机上訓練)、消火訓練、電気供給訓練、水供給訓練等

令和1年11月12日…火災(夜間想定)避難・誘導訓練、連携・連絡・通報訓練、地域住民の見守り等

火災を起こさないよう毎日チェックを行い、施設周り等整理整頓し、放火されないよう気をつけている。

5 地域交流施設運営

ふれあいサロンは、例年通り藤の花見学、道の駅での外食・買い物、忘年会等外出する機会を作り実施した。令和2月中旬から、コロナウィルス感染予防対策のため、地域交流センターを閉鎖し、ふれあいサロンや運営推進会議等中止している。

ふれあいサロン合同日帰り旅行も3月26日に予定していたが中止した。バーベキュー大会、吉野園祭を実施し、地域交流に努めた。2年目となる帝京大学生による学習支援ボランティアは、8月上旬の5日間実施、延べ20名の小学生(3年生～6年生)の利用があり、生徒や保護者から好評を得ることができた。くらなが安心ネット事務局の一員として、くらなが祭、元村地区清掃、行方不明者捜索(訓練)等参加協力し、定例会議等にも出席している。

令和元年度事業報告

部署名

ヘルパーステーションよしの

1. 全体の概況と課題

高齢になっても安心・安全に日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・移動・食事の介助、

その他生活全般にわたる支援と援助を目的として、次のサービスを行った。

①利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行った。

②利用者の日常生活全般の状況や希望を十分把握して、訪問介護計画書や個別援助計画書の作成を行った。

③介護職員（ホームヘルパー）として、介護技術の向上、知識習得のため各種研修会に参加し、

適切な訪問介護サービスの提供ができるよう努力した。

④看取りに不慣れな介護職員や不安を感じる介護職員に勉強会を行っていく。

2. 利用者対応

①利用者の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数 実績	36	35	36	34	35	36	36	33	36	37	34	33	421

	計	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	33	12	8	5	3	5

②利用者処遇と課題

利用者の思いやご意見を取り入れたサービスの提供、コミュニケーションを取ることに努めた。

清掃スタッフが3名になり、居室の清掃業務が充実してきた。清潔で快適に安心して生活できるようお手伝いしている。

今後は居室内だけではなく、吉野園内の廊下や窓・エレベーター内の清掃も行っていけるよう業務の見直しをする。

内部研修

6/17 6/19 腰痛予防体操 10/22 安全運転について

6/18 食中毒について 11/12 防災訓練研修

6/18 社用車運転について 1/15、20、28 認知症研修

7/23 身体拘束廃止マニュアルについて 2/6、10 人権学習

9/29 誤薬防止・インフルエンザについて 3/17 ターミナル研修

外部研修

5/22 令和1年度集団指導

7/12 「平成30年度介護報酬～改定事項に関する調査結果から見てきたもの」

（日本ホームヘルパー協会）

10/16 訪問介護サービス提供責任者就任前・経験3年未満研修

10/24 福岡県介護職員技術向上研修

12/10 筑後地区老人福祉施設協議会コーチング基礎研修 プレゼンテーション能力向上研修

1/24 筑後地区老祉協研究発表会 永年勤続表彰

1 全体の概況と課題

介護保険制度施行開始から20年の節目となり、制度の課題や有効性が明確化してきた。居宅介護支援においても、見直しや不要論等様々な論調があり、都度、ケアマネジメントのあり方を修正してきた。今年度は消費増税や大牟田市の総合事業運用見直しがあり、年度末にはコロナ対策に追われた。そんな中で、大牟田市CM連絡協議会や大牟田市、地域包括支援センター等と協議したことで、改めてケアマネジャーの役割の重要性を実感した。

今後の課題としては、ケアマネジメントの質の向上はもとより、地域特性を活かした多様な支援や、多職種連携による専門性を活かしたチームケアの実現、事業所内のフォロー体制の確立を目指す必要があり、事業所全体で取り組んでいきたい。

2 利用者対応

①利用者の状況(※事業対象者を含む)

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実績	新規利用者数	3	5	5	6	5	8	8	6	9	3	6	4	68
	実利用者数	170	172	174	173	176	184	188	191	198	194	196	192	2208
	(介護給付)	107	107	109	106	108	109	113	115	123	119	123	122	1361
	※(予防給付)	63	65	65	67	68	75	75	76	75	75	73	70	847

《利用者確保への取り組み》

今年度も関連施設や各包括支援センターからの紹介で、月平均5.7名の新規利用者増となった。今後も地域福祉への積極的な参加や地域包括支援センターとの良好な関係を維持し、利用者確保に繋げる。

②利用者処遇と課題

利用者個々の状況や思いに沿って、適切な支援を効果的に行えるよう、定期的な勉強会を開催している。また、定例会議や事例検討会を通じ、事業所全体で利用者を支えていることを共有し、職員が安心して働くことができる職場を目指している。課題としては、積極的な多職種連携と社会資源の活用であり、次年度の目標とする。

3 職員研修

(外部研修)

R1.5 三池包括主催研修、平成31年集団指導、予防プラン研修

R1.6 CM連協研修(プロフェッショナルについて)

R1.7 包括主催研修(依存症について)、吉野包括主催 CM、民生委員合同研修(通所事業所紹介)、CM連協研修(糖尿病)

R1.8 地域ケア会議、大牟田市介護予防説明会、終活フェア、手鎌包括主催研修(事例検討)

R1.9 認知症事例検討会

R1.10 CM連協研修(地域共生社会)、大牟田市高齢者虐待防止研修

R1.11 サ事協研修(スピリチュアル研修)、吉野包括主催研修(医療連携)、三池包括主催研修(総合事業)、終活フェア

R1.12 コーチング研修・プレゼン研修 R2.1 CM連20周年記念講演 R2.2 倉永地区認知症研修

(法人内研修)

R1.5 防災訓練

R1.6 腰痛予防研修、食中毒

R1.7 ストレスマネジメント、身体拘束・虐待防止

R1.9 インフルエンザ対策

R1.10 ノロウイルス対策

R1.11 防災訓練、身体拘束・虐待防止

R2.1 認知症研修

R2.2 人権学習

R2.3 ターミナル研修

(部署内研修)

H31.4 モニタリングについて

R1.10 課題整理総括表の活用

※事例検討会(毎月実施 ※3月、5月を除く)

その他:CM実習生受け入れ R2.3~5月